

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念に、笑顔、挨拶、思いやり、の3個をかかげ、地域の方と、利用者も職員も、笑顔で挨拶できるように支援している。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に基本理念、基本方針、施設テーマを唱和し、共有をはかっている。又、一日のリーダーは、利用者の良い笑顔がみられるよう、毎朝、今日の抱負を設定し取り組んでいる。	○	会議などで、折に触れ理念、方針、施設テーマの話をしているが、具体的に理念等について、職員と話合う機会を持てたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	自治会の開催しているサロンへのボランティアでの参加や、見学者、ボランティアの受け入れについても随時行っている		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所から、畑で取れた野菜や果物など戴き、植木の手入れや、消毒も手伝ってくださる。散歩時は、職員、利用者共、出会った地域の方と挨拶をかわす関係になってきている。隣の奥様が民生委員をされておられ、運営推進会議に参加して下さる。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の秋祭りでは特別に屋台を玄関前まで入れてくださったり、北池の水落としなど、交流する機会は多い。自治会長に、運営推進会議のメンバーになってもらっている。中学校のトライやるウィークの生徒の受け入れにも協力している。	○	、町内の掲示板を活用させていただいたり、幼、小、中などへの交流もしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	月1回の自治会のサロン「あすなろ」に有識者ボランティアとして出席している		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	家族には、評価結果を郵送し、前回の評価で助言を受けた点については、管理者、主任、ケアマネージャー、計画作成の、数人では取り組んではいるが、全体の職員とまではいたっていない。	○	第三者評価に向けて、職員全員で取り組んでいきたい。評価をうけて、検討、改善にも前向きに取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場では、利用者の状況や、施設の取り組んでいる内容を報告し、出席者の質問に答えたりして、意見交換をしている。	○	地域の認知症ケアの拠点、発信地に成り得るように、議題や内容を見直していきたい。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームの入居に関して播磨町の担当の方との情報共有を図っている	○	運営推進会議のメンバーとしては入っておられないため、今後見直しが必要である
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する理解は、新入社員研修や入社後のオリエンテーションで理解を深める研修を行っているが、それだけでは十分でないので、これからの課題である	○	地域包括支援センターの方による、成年後見制度等の話を聞ける機会を持ちたい。できれば、家族や地域の方の参加もつりたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者虐待防止法についての研修を受けており、職員は新入社員研修や入社後のオリエンテーションで理解を深める研修を行っており、さらに日常的に注意を払っている	○	計画的に研修を実施していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得	特に外泊、入院時の家賃や、初回請求時の内容等、十分な説明を心がけている。	○	分かりやすく別紙、図にて説明を行なっている。
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
13	○運営に関する利用者意見の反映	利用者様の多くは日常的に職員や管理者に対して意見を伝えてくれる為、その都度改善できることについて検討している。		
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	○家族等への報告	1ヶ月に1度ほおずき通信、写真、手紙で報告している。金銭管理については、預かり金の出納とともにレシートの送付を行っている。来訪時にも、必ず声を掛けコミュニケーションをとるようにしている。		
	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
15	○運営に関する家族等意見の反映	家族様からの意見は管理者に伝わるようになっており、個別に対応できるようになっている。ホームページにも、意見、要望を伝える窓口を設置している。		
	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
16	○運営に関する職員意見の反映	月1回の全体会議において改善提案という、スタッフから意見を募る場面を持っている		
	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている			
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整	現状では職員の勤務は固定しているが、今後そういった必要性がある場合は検討したい	○	利用者の対応で職員が必要な時間帯というものを今後検討していきたい
	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている			

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、離職はほとんど無く、日々なじみの関係になっている。全スタッフが全体把握のため、4ヵ月に1度、1F、2Fの入れ替えを行っているがダメージはあまりない。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社主催の研修や、全体会議、施設長・主任の研修、新人研修、エリア別研修等があり、ホーム内では、月1回の勉強会等を開いている。マイチャレンジ制度の目標管理面接においてもトレーニングしている	○	毎月の全体会議で勉強したい内容を取り上げた研修を行っていきたい。他施設に見学に行き、良い所を吸収して生かしていけるような取組みをしていく。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2市2町グループホーム協会の勉強会に参加したり、同じほおずき内でも加古川・明石エリアでの勉強会も参加している。	○	2市2町の勉強会に多くの職員のが加するように声掛けをしていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	マイチャレンジ面接において、個々の目標管理をするともに、そのとき抱えている問題やメンタル的な部分での話もしている		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	マイチャレンジにおいて目標を持ち、仕事に当たっている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前は本人というよりも家族の意見や訴えが先にあるため、本人に対しては情報を集める面接にて、思いを聞いている		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所までの間に面接を行い、本人、家族の抱える問題や不安等、しっかり聞き取りを行うようにしている		
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にグループホームに対する理解や、知識を持っておられる方は少なく、総合的に適切なサービスの紹介を行っている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みに来られた際に、少しでも慣れて頂けるようデイサービスの利用等を進めている。スムーズな入居をしていただけるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の口からでる感謝の言葉や笑顔で逆に職員が元気づけられ、学んだり、支え合っていることを感じている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	本人の気持ち、思いも含め、介護する側の気持ちも家族には、お話しするようにしている。		
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居される場合には多くの場合利用者と家族の関係は良いものとは言えず、離れて生活することによって出来る気持ちの余裕を持っていただき、関係の修復に努めている。どういう風に声かけをとアドバイスすることもある		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居することで、それまでの友人関係や、近所づきあいが途切れてしまわないよう、継続してお付き合いが出来るようグループホームとして、外出、面会などを強くお勧めしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士のかかわりに関しては非常に難しく、トラブルもあるが、基本的に、孤立している方をどうするかを考えている	○	数人、個別での外出などの検討をする。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後にも入院先へ面会に行ったり、転院先へも面会に行き、関係は継続している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の中でも以前は本人の思いや言葉が出てこない状況があったが、現在は本人がどうなりたいかなど、具体的に本人の言葉や思いが記入できるようになっている。困難な場合は家族の思いを聞き取り反映している。センター方式の私の姿シートの取り組みの開始。	○	センター方式を使い、本人の思いを把握したり、1日状の態、出来ること、出来ないことを掴んでいきたい。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中でコミュニケーションをとりながら、本人の生活歴や好みを聞き取れるようにしている。	○	入所前に面接を行い、家族、本人から生活歴、サービス利用に関して聞き取り、また、フェースシートの記入をいただいている。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	基本的には本人のペースでの生活を行ってもらっているが、活躍できる場面ではその持てる力を発揮していただいている	○	本人の状態の変化を毎月のケース会議で話し合い、対応ノートを作成している。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	具体的に本人の言葉や思いが記入できるようになっている。困難な場合は家族の思いを聞き取り反映している。その上でスタッフが集まりケース会議を開き検討している		
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態、変化に対応したケアを行うため、定期的に月1回、ケース会議を開き、介護計画を見直している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入するのは1人ではない為、書きやすい記録を検討し、現在はどんなことがあったとエピソードを記入できるようにしている。その中から気づきをケース会議で共有し、計画に反映している。		私の姿、わたしの言葉シートの記入をおこなっている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームとデイサービスがあり、入居を希望している方に対しては、デイサービスのご利用を勧めている。雰囲気慣れるということを考え、急な変化を緩和できればと思っている。入居後もデイサービスで馴染みの職員や友人と話ができるよう支援している。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域運営推進会議において民生委員の方にも参加をいただいております、また、地域のボランティアの方々にもホームでの行事参加をいただいております。教育機関との協力という意味では、トライやるウィークの受け入れもおこなっている。		
41 ○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	主に福祉用具、車椅子や、歩行器などについて専門の業者との関わりを持ち、支援している		
42 ○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーになっていただいていることもあり 会議の際など、成年後見制度、権利擁護について補足説明をしてもらっている。	○	家族会でもこのような研修、認知症サポーターについての研修を行っていきたいと思っているため 参加を促したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が救急指定の総合病院であり、かかりつけ医になっている方に関しては訪問診療を行っている。またそれ以外の方に関しても入居前のかかりつけ医との関係を継続していただいている。歯科に関しては、訪問歯科を利用している。治療後も歯科衛生士による。口腔ケアをしてもらっている。、眼科等については協力医療機関や、近隣の医療機関を利用している		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門外来のある医療機関に受診しており、受診時には経過報告を持参し、日ごろの様子をしっかりと伝えられるようにしている。薬の服用による変化などに関して、電話やFAXでの問い合わせにも対応していただいている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用支援をしている	デイサービスの看護師が日中は勤務しているので、入居者の情報をできるだけ伝え、情報の共有を行い、対応できるようにしている。協力医療機関の看護師も必要時には来てくれている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者が早期退院に向け、Dr. とお話し、早期退院へ向けて家族様との話し合いの場を持つようになっている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や、入院になった場合でも家族やDrとの話し合いはしっかりと持ち、共有するようつとめている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	特に事業所の出来ること、出来ないことを家族に十分に理解していただいた上で、Dr、家族との話し合いを継続し、チームとしてケアを行っている。また、家族の不安を軽減するため、今後の事に関しても色々な情報を提供し、出来るだけ相談に乗る姿勢でかかわっている。	○	他施設の情報をもっと集め、知ることによって色々な提案が出来るようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居を希望している方に対しては、デイサービスのご利用を勧めている。雰囲気慣れるということを考え、急な変化を緩和できればと思っている。グループホームから別の居所へ移られる際も、なじみのスタッフが面会などに行くことでダメージを緩和できるよう努めている	○	グループホームから別の所へ移られる際、出来るだけグループホームでの情報を伝えるようにすると共に、可能な限りなじみのスタッフが面会などに行くようにしている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者が、一人の人間として、当たり前のプライバシーを確保できるよう努めている。個人情報については守秘義務を契約書に明記し、家族に同意を得ている。	○	職員は一人一人の性格や行動パターンを知り、その人にあった声掛けをするように心がけている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に自己決定の支援を心がけている。職員本位に押し付けることはない。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の自由さを持ちながら1日のリズムを作っている。体操や、散歩、掃除、食事作り、入浴等本人のペースに任せている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	散髪屋さん、美容室、個人の希望を聞き付き添っている。またお店は認知症に対して理解のあるお店を選んでいる。衣類に関してもお店に行き気になったものを購入されている。お化粧をしておられる方もいて、自分なりのこだわりを大切にしている。	○	最近では、訪問理美容の方もきてくれている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ねぎを切ることが仕事の方や、盛り付けを仕事としている人、味見が仕事の人、調理中に何度も台所の様子を見に来る人等、みんなで楽しく準備をし、片付けは出来る方は自分でされている	○	手作りみそ、うどん、パンなど、利用者に教えてもらいながら作ることにチャレンジしている。
55 ○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は、常時希望される方がないので行事の際にお出ししている。週に一度、パン屋さんが来る時には、希望の方には購入していただいている。買い物に出掛けた際、おやつを買われる事もある。その他、利用者の希望の物を限度を見ながら購入できるようにしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁等ある方に対しては家族様と相談のうえ、リハビリパンツや尿取りパットの対応を行っている。その方の排泄パターンを把握し、出来るだけ布のパンツでの対応を行っている		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴介助が必要な方は多く、希望が全てかなえられてはいないが、それに近づけるように入浴を支援している。入浴剤を使用したり、菖蒲湯、ゆず湯等で喜んで入浴して頂けるように工夫している。浴室内では1対1の形になる為、良いコミュニケーションの場面となっている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	季節に合わせ、寝具や衣類の衣替えを家族様の協力も得て行い、安眠できるよう支援している。必要な方には、入眠されるまで職員が付き添い、安心していただけるような支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味を生かし、畑を管理してくださる方や、包丁とぎが上手な方、雑巾縫いなど役割を生かしている。生活の中で楽しみが持てるよう外出や外食の行事、ボランティアの受け入れも取り入れ行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していただくことで紛失や、人にあげてしまうこと のリスクを家族様に理解をしていただいたうえで所持さ れている方は増えている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその 日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援し ている	雨天、厳しい暑さ、寒さ以外は、毎朝散歩している。、買い 物に行ったり、家族様と出かけたりと、1日に1回は外に出 られるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところ に、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけ られる機会をつくり、支援している	年1回のバス旅行(家族様も参加)、花見、足湯、紅葉狩 り、等を企画し、外出の機会を作っている。また、少人数で 喫茶店に行くなどの取り組みもしている。	○	1対1での外出、利用者様の希望にそった外出等も今後検 討していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手 紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の電話を使用していただき、家族や、友人と話す機 会を持っていたい。年賀状を家族様に書いてもら うなどの支援をしている。	○	手紙のやり取りについてはこちらからの働きかけがもう少 し必要である。通信に手紙を同封していただけるよう検討 したい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たち が、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせる よう工夫している	家族や友人等の面会は多く、ほとんどの方は居室ですごさ れることが多い。お茶だしなどの配慮を行っている。他の 利用者の家族様ともなじみの関係もできており、会話はは ずんでいる。	○	家族様来訪時、散歩に出てもらったり、出来れば外出し て、お茶や食事を楽しんで貰えるようにアプローチしてい く。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準に おける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理 解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでい る	身体拘束についての理解を職員間で深めた上でケアに当 たっているが今後も新人職員に対してなど、しっかりとした 研修を継続して行って行きたい		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアが大切だということは職員は十分理解しており、日中は入浴介助などで見守りが不十分な時以外はかけていない。ただし、夜間については、防犯上施錠をしている。		
67 ○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	共用部分とは対面のキッチンになっている為職員は全体を見渡すことが出来、利用者の所在確認を行っている。また、居室におられる利用者には、時々声掛けをすることにより、所在確認するようにしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁やはさみなどの刃物、裁縫道具はパートナ室で管理し、洗剤等の危険物は倉庫にて管理している。ともに施錠し管理している		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故に関しては、実際にあった事故への取り組みや、マニュアルに沿って対応が出来るように取り組んでいる。事故報告書に皆が目を通せるようにして情報を共有し再発防止につとめている。	○	業務日誌にヒヤリハットの項目を追加し 一日1個はあげるようにしている
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師に急変時の対応マニュアルを作ってもらい、初期対応がしっかり出来るようにしている。	○	施設内での救命講習に取組たい
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施を計画だてで行っている。消防署員による消火器の使い方等の指導も受けている。、近隣への応援体制も常々協力をお願いをしている	○	夜間、火災場所に応じた避難訓練の実施を行ってきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会に来られた際、介護計画の説明の際などに、最近の様子とともに、今の日常生活のなかでどれだけリスクがあるのか随時伝えている。	○	身体への傾斜、杖よりシルバーカーの方が安全、安定している事などを伝え、購入していただいている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを午前中に行い、体調の変化や異常の早期発見に努めている。その変化や異常をスタッフ間で共有し、看護師のいる時間帯であれば看護師に診てもらうことで迅速な対応を心がけている。	○	高血圧の方の測定値の表示方法の検討
74 ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を薬局に発行していただき、個別に管理し、配薬、服薬確認をする担当をきめており、責任を持って服薬されるまで見守っている。いつもと違う薬が処方された場合も分かるようにしている		
75 ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防の為に、適度な運動と牛乳や、食物繊維の摂取を心がけている	○	排便確認の取れない方への対応を検討していきたい
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入れ歯の方が多いため就寝時に入れ歯洗浄を行っている。歯の無い方にはうがいをしてもらっている。週1回の訪問歯科による口腔ケアをうけておられる方もおられる。	○	毎食後の口腔ケアができるようにしたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は人によって違うがその量を把握し、おかわりも出来るようにしている。水分の摂取についても、ココアや梅こぼ茶など、変わったものも取り入れ工夫している。夜間はペットボトルにお茶をいれ、居室でもしっかりと飲めるようにしている。夜間起きて来られた方には、飲み物を出し、水分補給をしてもらっている。常時把握の必要な方は、食事量、水分量を記入している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対するマニュアルがあり、職員に周知している。12月には全員（スタッフも）インフルエンザの予防接種を受け、手洗いうがいの徹底を行っている。	○	食事前の手指消毒の実施
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板の消毒、新鮮な食材を業者の配達や、スーパーでの買い物で調達し、冷蔵庫には食材があまり残らないようにしている。食材の選択には気をつけている。	○	開栓した物、開封した物の保存方法の検討
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花を植えたり、たくさんの木がある庭の畑にはその季節の野菜など植えたりして親しみやすくしている。玄関外には、ベンチを置き座って話せるスペースを設けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレに一輪挿しがあったり、共用部分にもその季節の花があったりする。リビングでは昔の音楽がBGMとして流れていたり、落ち着いた空間づくりをしている。壁には季節にあった作品の飾り付けをし、季節を感じ取れるようにしている。絵本や雑誌、アルバムを自由に見られるようにもしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い窓際にソファを置き、気の合うもの同士が思い思いの話に花を咲かせている。そのままうたた寝などされている。和室には、布団や毛布を用意しており、ちょっと横になられる利用者もおられる。	○	人目をきにせずゆっくりすごせる隠れ家のような空間がほしいと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に新たに購入するのではなく、使い慣れたものを優先的に持ってきていただくようお願いしている。写真や、作品を置いたりすることで落ち着いた空間にしている。利用者が欲しいと言われる物を家族に持ってきてもらったり、仏壇を置かれている方もおられる。		
	84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	においが付きやすいので天気の良い日や、掃除の時間などは換気をしっかりと行っている。温度は外気温と極端な差が出ないよう配慮し冷暖房の温度調節もこまめにおこなっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がひとつもないのでつまづくことはないが、脚を上げない生活が多くなる為、散歩などに出かけ下肢筋力の低下に気をつけている。トイレに手すりを増設し、ドアから便器まで手すりを伝って安全にいけるように配慮した。	○	階段使用が可能な方は、職員の見守りのもと、階段を利用していただき、筋力の低下防止に努めている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの表示や、居室の表札については分かりやすいように色分けしたり、矢印、大きな字にしたりしている。居室入り口に好みの暖簾を掛け居室がわかりやすく工夫をしている部屋もある。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関には季節の花を、庭の畑には季節の野菜を植え、皆で収穫している。庭にはベンチを設置し、ゆっくりと花や野菜の育つのを眺めることが出来るように憩いのスペースを設けている。掲示板を利用し地域への情報発信をしたり、利用者の方の作品を掲示している。	○	車イスでも行き来出来るようなスペースの確保をしたい。

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日の生活の中で、その人のできること、できないことをみつけ、持てる力をしっかりと引き出し、ケアを行っています。利用者様の希望をかなえられるように考え、時には、家族様に協力を得ながら、ほおずきで、のんびり、ゆったりすごしていただけるよう支援しています。